

# 総合型地域スポーツクラブ育成のための住民調査

— 愛媛県今治市上浦町の場合 —

堺 賢治・藤原 誠 (保健体育研究室)

山本 孔一 (愛媛女子短期大学)

黒川 真由 (岡山県南部健康づくりセンター)

(平成17年6月3日受理)

## A survey for cultivating comprehensive community sports clubs

— The case of kamiura-cho, imabari-city, ehime —

Kenji SAKAI, Makoto FUJIWARA,

Koichi YAMAMOTO, Mayu KUROKAWA

### I. 序論

スポーツ社会学の過去の研究を振り返ると、研究のための研究が多く、研究成果によって地域を変えるというような視点に立った研究はあまりなされていない。全国の総合型地域スポーツクラブの設立や育成に向かっている研究はこのような視点が必要であろう。別の言葉で言えば、スポーツ政策学的な研究である。

全国における総合型地域スポーツクラブの育成状況としては、2004年1月31日までに設立されているか設立予定のクラブが1128あるということが報告されている<sup>1)</sup>。このように、すでに全国的にもたくさんの総合型地域スポーツクラブが設立され運営されている。愛媛県でも1997年度から波方町の「なみかたスポーツクラブ」が総合型地域スポーツクラブ育成モデル事業を開始し、その後もいくつかのクラブが活動を始めている。しかし、総合型地域スポーツクラブは設立までのプロセスにはあまり問題はないが、設立後の運営が困難な状態にあり、様々な問題があげられている。例えば、総合型地域スポーツクラブの認知度が低いこと、会員の募集が大変である、専門的な指導者がいない、住民のニーズにあった教室やプログラムがない、いつでも使用できる施設がないなどである。また、一番大きな問題としてあげられるのは、クラブを運営していくための金の問題である。

総合型地域スポーツクラブは立ち上げるよりも立ち上げた後の運営が大変という状況の中で、2003年5月

「かみうらスポーツクラブ」(愛媛県今治市上浦町<sup>(注1)</sup>)がスポーツ施設を作った後、スポーツ施設の利用率を上げるためにクラブが設立された。そこで、本研究では、上浦町の総合型地域スポーツクラブのよりよい育成を目指し、第一に、上浦町住民のスポーツ活動の実態やニーズを把握し、第二に、上浦町のスポーツ施設の利用状況を高め、第三に、設立した「かみうらスポーツクラブ」育成のための資料を得ることを目的にした。

(注1) 上浦町は2005年1月、今治市と合併し、今治市上浦町になった。今治市の北東部に位置し、しまなみ街道の大三島の東部にあり、面積22.31 km<sup>2</sup>の町である。人口は2003年現在3,713人であり、65歳以上の高齢化率は38.4%である。また、産業構造は、第一次産業が39.3%、第二次産業が21.8%、第三次産業が38.9%となっている。耕地面積の割合は、果樹園95.5%、田2.5%、畑2%となっており、柑橘栽培が盛んである。

### II. 調査方法

- (1) 調査対象：上浦町に在住する20歳以上の住民1571名
- (2) 調査時期：2003年10月
- (3) 調査方法：質問紙による配票調査
- (4) 回収率：有効回収数 647部 有効回収率 41.2%
- (5) 分析の視点

- ①性別：男性（N＝274 42.3%）  
女性（N＝373 57.7%）

②クラブ加入の有無

総合型地域スポーツクラブへの加入の有無によって、加入している人をA群、加入希望者をB群、加入したくない人をC群とした。A群の人はわずか9.3%であり、これからのクラブであることがわかる。（表1）

表1 クラブ加入の有無

項目	N	%	
加入している	60	9.3	A群
加入したい	164	25.4	B群
加入したくない	344	53.1	C群
無回答	79	12.2	

### Ⅲ、結果及び考察

#### 1. 年齢

表2は年齢について示したものである。全体では、「30歳代以下」が3.2%、「30歳代」が7.4%、「40歳代」が12.7%、「50歳代」が28.5%、「60歳代」が24.7%、「70歳代以上」が23.5%と50歳代以上で8割弱を占めている。また、無効になった調査票は「70歳代以上」が一番多く、次いで「60歳代」が多く、高齢化が起きていることがわかる。性別では差はみられない。

表2 結果及び考察 (%)

項目	男性	女性	A群	B群	C群	全体
10歳代	0.4	0.3	0.0	0.6	0.3	0.3
20歳代	1.8	3.8	1.5	4.2	2.9	2.9
30歳代	8.8	6.4	25.3	7.2	5.0	7.4
40歳代	12.0	13.1	19.4	12.7	12.8	12.7
50歳代	28.4	28.4	23.9	27.1	28.8	28.5
60歳代	23.4	25.7	7.5	28.9	25.4	24.7
70歳代以上	25.2	22.3	22.4	19.3	24.8	23.5

加入の有無別に比較すると、A群では、30歳代、40歳代が多く、C群については50歳代、60歳代、70歳代以上が多くなっている。このことから、若年齢層ほど総合型地域スポーツクラブに加入しているといえる。

#### 2. スポーツ活動

##### (1) 種目

表3は、過去1年間によく行ったスポーツ種目について

示したものである。全体では、「散歩・ウォーキング」が36.2%と最も多くなっており、次いで、「バレーボール、レクリエーション・バレーボール（以下、バレー・レクバレーという）」の12.5%、「軽い体操」の11.3%、「野球・ソフトボール」の8.0%となっている。特徴としては、「散歩・ウォーキング」や「軽い体操」といった気軽に個人が行うことの出来るスポーツや「バレー・レクバレー」や「野球・ソフトボール」という多人数で行う球技に人気があるといえる。性別で比較すると、女性は「散歩・ウォーキング」が多いのに対し、男性は「野球・ソフトボール」が多い。

表3 種目 (%)

項目	男性	女性	A群	B群	C群	全体
散歩・ウォーキング	28.5	41.8	34.3	44.6	32.1	36.2
バレー・レクバレー	10.9	13.7	43.3	12.7	7.6	12.5
軽い体操	10.9	11.5	7.5	15.1	9.9	11.3
野球・ソフトボール	15.7	2.4	22.4	8.4	5.8	8.0
ジョギング	5.8	4.8	1.5	6.0	5.5	5.3
ゲートボール・クロッカー	8.8	2.4	23.9	5.4	1.2	5.1
水泳	1.8	6.7	4.5	9.6	1.7	4.6
その他	20.2	16.9	30.0	24.6	14.6	18.2

(2つまで○印)

加入の有無別に比較すると、A群では「バレー・レクバレー」「ゲートボール・クロッカー」「野球・ソフトボール」などのチームスポーツが多くなっている。また、B群やC群は「散歩・ウォーキング」「軽い体操」などの気軽に行えるものが多くなっている。

##### (2) 頻度

表4は、過去1年間のスポーツ実施頻度をあらわしたものである。全体では、「週に3回以上」が13.9%、「週に1～2回」が15.5%であり、週に1回以上スポーツを行っている人は、29.4%となっている。愛媛県の調査<sup>2)</sup>では、週に1回以上スポーツを行っている人は、27.6%であり、ほぼ同じ結果になっている。しかし、「行っていない」と答えた人は、今回の調査では44.5%、愛媛県の調査では39.0%となっており、上浦町ではスポーツ実施率が低いことがわかる。性別について差はみられない。

表4 頻度 (%)

項目	男性	女性	A群	B群	C群	全体
週に3回以上	15.0	13.1	26.9	16.3	10.2	13.9
週に1~2回	13.1	17.2	38.8	20.5	10.2	15.5
月に1~2回	10.6	9.7	19.4	13.3	7.3	10.0
年に数回	15.0	13.7	14.9	18.7	12.2	14.2
行っていない	44.1	44.7	0.0	30.6	57.8	44.5
無回答	2.2	1.6	0.0	0.6	2.3	1.9

加入の有無別に比較すると、週に1回以上スポーツを行っている人は、A群が65.7%、B群が36.8%、C群が20.4%となっている。このことから、A群については、すべての人が積極的にスポーツ活動を行っているといえる。しかし、C群については、約6割の人がスポーツ活動をまったく行っていない状況にあることがわかる。

(3) 施設

表5は、過去1年間のスポーツ実施場所をあらわしたものである。全体では、「公共のスポーツ施設」が22.3%、次いで、「道路」の19.6%、「学校の体育施設」の11.0%となっている。「公共のスポーツ施設」や「学校の体育施設」は、表3のスポーツ実施種目で多い「バレー・レクバレー」や「野球・ソフトボール」の実施場所になっていると思われる。また、一番身近な場所である「道路」も「散歩・ウォーキング」の場所であると考えられる。上浦町の道路は、車の通りが少なく、きちんと歩く道や自転車の道が舗装されており、とても活動しやすい場所になっている。性別で比較すると、男性は「公共のスポーツ施設」、女性は「道路」でスポーツを実施する人が多い。

表5 施設 (%)

項目	男性	女性	A群	B群	C群	全体
公共のスポーツ施設	25.5	19.8	77.6	27.7	10.5	22.3
学校の体育施設	12.8	9.7	32.8	13.9	7.0	11.0
職場のスポーツ施設	0.7	0.8	0.0	0.6	0.6	0.8
商業スポーツ施設	2.2	2.9	1.5	3.0	3.2	2.6
公園・空き地	6.2	4.0	11.9	5.4	3.2	4.9
道路	15.3	22.8	11.9	27.7	18.1	19.6
自宅	7.3	8.0	1.5	7.8	8.7	7.7
野外(海・川・山)	5.5	4.3	3.0	7.8	3.8	4.8

(2つまで○印)

加入の有無別に比較すると、A群は「公共のスポーツ

施設」「学校の体育施設」が多くなっており、B群では「道路」が多くなっている。これも、A群では「バレー・レクバレー」や「野球・ソフトボール」が多いため、B群では「散歩・ウォーキング」が多いためであろう。

(4) クラブ加入

表6は、過去1年間のスポーツクラブ加入の有無と形態についてあらわしたものである。全体では、スポーツクラブに加入している人は25.3%であり、愛媛県の調査と比較すると、愛媛県では29.1%であり、上浦町のスポーツクラブの加入率は低いといえる。形態としては、「仲間で作ったクラブ」に加入している人が15.4%と最も多く、次いで、「体育協会のクラブ」の8.2%である。性別で比較すると、スポーツクラブに加入している人は、男性が30.3%、女性が21.7%であり、男性はすべての項目において多くなっている。特に、「体育協会のクラブ」の項目において男女差がみられた。

表6 クラブ加入 (%)

項目	男性	女性	A群	B群	C群	全体
体育協会のクラブ	13.9	4.0	47.8	6.6	2.6	8.2
PTAのクラブ	4.4	2.7	10.4	3.0	2.3	3.4
仲間で作ったクラブ	16.8	13.9	64.2	15.1	6.7	15.1
職場のクラブ	2.9	0.8	3.0	1.8	1.5	1.7
加入していなかった	66.8	75.1	3.0	65.7	86.9	71.6
無回答	2.9	3.2	1.5	4.2	1.7	3.1

(あてはまるものにすべて○印)

加入の有無別に比較すると、クラブに加入している人は、A群が95.5%、B群が30.1%、C群が11.4%となっており、A群においてはほとんどの人がクラブに加入していることがわかる。総合型地域スポーツクラブはふだん定期的なスポーツ活動を実施していない人を加入させることが目的であり、B群やC群の人をどのようにして加入させることが課題である。

(5) 今後のスポーツ活動

表7は、今後行ってみたいスポーツ種目についてあらわしたものである。全体では、「散歩・ウォーキング」が35.5%と最も多く、次いで、「軽い体操」の16.7%、「水泳」の11.9%、「ハイキング」の10.0%の順である。表3の過去1年間のスポーツ実施種目と比べて、「散歩・ウォーキング」や「軽い体操」など、現在行ってい

るスポーツを今後も引き続き行いたいと思っている人が多い。しかし、「バレー・レクバレー」や「野球・ソフトボール」は上位に入っておらず、「水泳」や「ハイキング」が上位に入ってきており、個人的に気軽に行えるスポーツにニーズが高まっているといえる。また、これらのことは、新しく温水プールが出来たことや自然豊かな上浦町であるからも考えられる。性別で比較すると、男性は、「散歩・ウォーキング」を除けば、「野球・ソフトボール」「ゲートボール・クロッケー」などのチームスポーツが多い。一方、女性は、「散歩・ウォーキング」「軽い体操」「水泳」「卓球」など、気軽に個人で行えるスポーツに対してニーズが高まっているといえる。

表7 今後のスポーツ活動 (%)

項目	男性	女性	A群	B群	C群	全体
散歩・ウォーキング	33.2	37.8	17.9	36.7	36.7	35.9
軽い体操	8.4	22.8	9.0	19.9	16.6	16.7
水泳	7.3	15.3	11.9	22.3	6.7	11.9
ハイキング	7.7	11.8	9.0	7.2	12.0	10.0
バレー・レクバレー	6.2	9.4	20.9	9.0	5.0	8.0
卓球	3.3	10.5	9.0	11.4	5.2	7.4
テニス	7.3	6.7	17.9	10.2	3.5	7.0
ボーリング	6.9	6.4	1.5	2.4	3.2	6.6
ゲートボール	10.6	2.9	20.9	8.4	2.3	6.2
野球・ソフトボール	12.4	0.3	11.9	6.6	4.1	5.4
その他	30.3	18.6	40.3	27.0	18.7	23.3

(2つまで○印)

加入の有無別に比較すると、A群は、「バレー・レクバレー」「ゲートボール・クロッケー」「テニス」「ゴルフ」などの球技が多くなっており、B群は、「散歩・ウォーキング」「水泳」「軽い体操」など気軽に個人で行うことの出来るスポーツが多くなってきている。

### 3. 上浦町のスポーツ施設環境

#### (1) スポーツ施設利用状況

表8は過去1年間に上浦町のスポーツ施設を利用したことがあるかどうかをあらわしたものである。全体では、「利用したことがない」人が62.4%と最も多く、次いで、「多々羅スポーツ公園」を利用したことがある人が31.2%、「それ以外のスポーツ施設」を利用したことがある人が16.8%であり、まだ十分に利用されていない。「利用したことがない」人が多くなった理由としては、

表3の過去1年間に行ったスポーツ種目中で上位に「散歩・ウォーキング」「軽い体操」など、身近なところで気軽に出来るスポーツを行っている人が多く、また、表5のスポーツ実施場所で「道路」と答えた人が多いからだと考えられる。性別で比較すると、男性は女性に比べて、「多々羅スポーツ公園」と「それ以外のスポーツ施設」とともに利用頻度が高くなっていることがわかる。

表8 スポーツ施設利用状況 (%)

項目	男性	女性	A群	B群	C群	全体
多々羅スポーツ公園	33.9	29.2	95.5	39.2	15.7	31.2
それ以外のスポーツ施設	20.1	14.5	59.7	19.9	8.5	16.8
利用したことがない	59.9	64.3	0.0	50.0	76.6	62.4

(あてはまるものすべて○印)

加入の有無別に比較すると、A群では、上浦町のスポーツ施設をすべての人が利用していることがわかる。特に、「多々羅スポーツ公園」は、95.5%とほとんどの人が利用している。一方、B群とC群の「利用したことがない」が多い理由として、過去1年間に行ったスポーツ種目では「散歩・ウォーキング」と「軽い体操」など、身近なところで気軽に行えるスポーツを行っている人が多いことからだと思われる。

#### (2) 多々羅スポーツ公園の利用状況

表9は、多々羅スポーツ公園を利用した人に、どの施設を利用したことがあるかを聞いたものである。全体では、「温泉・温水プール」45.5%と「体育館(アリーナ)」45.0%が多く利用されている。性別で比較すると、男性は、「多目的グラウンド」「テニスコート・ゲートボール場」の利用が多くなっており、女性は、「温泉・温水」「体育館(アリーナ)」「トレーニング室」の利用が多くなっている。

表9 多々羅スポーツ公園の利用状況 (%)

項目	男性	女性	A群	B群	C群	全体
温泉・温水プール	35.5	54.1	23.4	63.1	49.3	45.5
体育館(アリーナ)	35.5	53.2	57.8	35.4	53.7	45.0
多目的グラウンド	35.5	5.5	31.3	10.8	14.8	19.3
テニスコート・ゲートボール場	34.4	11.9	35.9	18.5	11.1	22.3
トレーニング室	21.5	39.4	34.4	21.5	40.7	31.2

(あてはまるものすべて○印)

加入の有無別に比較すると、A群では、「体育館（アリーナ）」「テニスコート・ゲートボール場」「多目的グラウンド」の利用が多くなっている。また、B群では、「温泉・温水プール」の利用が多く、C群では、「体育館（アリーナ）」「温泉・温水プール」「トレーニング室」の利用が多くなっている。B群やC群のようなまだクラブに入っていない人を加入させるためには、温水プール、体育館やトレーニング室を利用したスポーツ教室や講習会などが必要であると考えられる。

(3) 多々羅スポーツ公園の評価

表10は、多々羅スポーツ公園を利用したことのある人に、多々羅スポーツ公園の施設や環境、指導やプログラムについて聞いたものである。数字は各項目ごとに、「まったくその通りだと思う」「どちらかというと思う」「どちらともいえない」「どちらかといえばそう思わない」「まったくそう思わない」という回答を用意し、「まったくその通りだと思う」と「どちらかといえばそう思う」を合計したものである。

全体では、高い項目として、「施設内が清潔である」66.7%、「簡単に利用手続きができる」64.7%、「通いやすい場所にある」63.7%があげられる。「簡単に利用手続きができる」以外はハード面であり、多々羅スポーツ公園はハード面がしっかりしていることがわかる。一方、評価の低かった項目は、「指導できるスタッフがいる」10.8%、「プログラムの本数が多い」15.7%、「情報がたくさん得られる」26.0%となっており、ソフト面についてはしっかりしていないことがわかる。このことから、指導者の育成や雇用、住民のニーズにあったプログラムを用意することが必要である。性別で比較すると、女性の方が男性よりも評価が高くなっている傾向がある。特に、「簡単に利用手続きができる」「スタッフの対応がよい」「施設内が清潔である」「トレーニング器具が充実している」「運動後温泉でくつろげる」などの項目が高くなっている。

表10 多々羅スポーツ公園の評価 (%)

項目	男性	女性	A群	B群	C群	全体
施設内が清潔である	60.5	71.7	74.2	68.7	66.1	66.7
簡単に利用手続きができる	57.2	70.8	66.1	67.2	67.9	64.7
通いやすい場所にある	61.6	65.4	62.9	70.2	67.8	63.7
運動後温泉でくつろげる	47.3	57.5	45.2	62.7	55.3	52.9
休憩する場がある	47.3	54.0	56.4	53.8	53.5	51.0
活動できる十分なスペースが確保	47.3	50.5	59.7	53.7	37.5	49.0
スタッフの対応がよい	39.6	51.4	48.3	52.3	41.1	46.1
利用料金が安い	40.7	39.0	42.0	43.3	37.5	39.7
雑談する場がある	33.0	39.0	48.4	43.3	33.9	36.2
トレーニング器具が充実している	31.9	40.7	40.3	44.8	32.1	36.7
情報がたくさん得られる	26.4	25.7	35.5	25.4	17.9	26.0
プログラムの種類や本数が多い	16.5	15.1	17.7	19.4	10.7	15.7
指導できるスタッフがいる	8.8	12.4	8.0	12.0	14.3	10.8

加入の有無別に比較すると、全体的に、A群とB群の評価が高くなっており、C群の評価が低くなっている。A群とB群は、多々羅スポーツ公園の利用が多く、施設やスタッフに対する愛着の度合いであると思われる。また、施設の評価が高いことから、リピーターに成っていると思われる。一方、C群は、スポーツ施設に対して興味がなく、あまり利用していないために評価が低くなったと考えられる。

4. 総合型地域スポーツクラブ

(1) クラブ理解度

表11は、総合型地域スポーツクラブの理解度についてあらわしたものである。全体では、「よくわかった」13.4%、「だいたいわかった」58.1%となっており、約7割の人が、総合型地域スポーツクラブについて、ある程度理解してもらえたことがわかる。性別では差はみられなかった。

表11 クラブ理解度 (%)

項目	男性	女性	A群	B群	C群	全体
よくわかった	14.2	12.9	17.9	16.3	9.9	13.4
だいたいわかった	58.4	57.8	71.6	66.9	52.0	58.2
あまりよくわからなかった	15.7	17.2	7.5	10.2	22.4	16.5
わからなかった	5.1	3.5	0.0	0.0	7.0	4.2
無回答	6.6	8.6	3.0	6.6	8.7	7.7

加入の有無別に比較すると、「よくわかった」「だいたいわかった」と答えた人は、A群89.5%、B群83.2%、

C群61.7%となっている。A群とB群は、総合型地域スポーツクラブに興味を持ちながら目を通したことにより、高い数値があらわれたもの考えられる。

(2) 勧誘の有無

表12は、かみうらスポーツクラブへの勧誘の有無についてあらわしたものである。全体では、「ある」と答えた人は23.0%であり、あまりクラブへの勧誘を行っていないことがわかる。性別で比較すると、「ある」と答えた人は、男性27.7%、女性19.6%であり、男性の方に少しだけ多く勧誘を行っていることがわかる。

表12 勧誘の有無 (%)

項目	男性	女性	A群	B群	C群	全体
ある	27.7	19.6	89.5	18.1	12.5	23.0
ない	71.9	78.3	9.0	80.7	86.6	75.6
無回答	0.4	2.1	1.5	1.2	0.9	1.4

加入の有無別に比較すると「ある」と答えた人は、A群89.5%、B群18.1%、C群12.5%である。B群とC群への勧誘が不足していることがわかり、もっと積極的に勧誘を行うことが必要である。また、A群の特性として、過去1年間のクラブ加入の有無で、加入していると答えた人が95.5%となっており、かみうらスポーツクラブに加入している人は、何らかのクラブに加入しており、そこで勧誘を受けたことがわかる。

(3) クラブ加入条件

表13は、現在「かみうらスポーツクラブ」に加入していない人に、クラブ加入条件について聞いたものである。全体では、「自分のレベルにあった運動ができる」の34.3%が最も多くっており、次いで、「一緒に活動する仲間がいる」の25.8%、「健康をチェックしてもらえる」の21.6%、「安い値段でスポーツができる」の16.7%、「施設の利用料金が割引になる」の13.3%になっている。このことから、多種多様のスポーツ教室を用意し、定期的に健康をチェックしてもらえるようなシステムを導入することが必要である。また、スポーツクラブ加入者には、割引や特典をつけるなどサービスが必要であることがわかる。さらに、スポーツ教室などの後にはおしゃべりができるような空間をつくり、コートの外

空間を大切にすることが必要である。性別で比較すると、女性は、「自分のレベルにあった運動ができる」や「一緒に活動する仲間がいる」が多くなっている。

表13 クラブ加入条件 (%)

項目	男性	女性	B群	C群	全体
自分のレベルにあった運動ができる	29.6	37.8	47.6	34.1	34.3
一緒に活動する仲間がいる	20.8	29.5	47.0	19.8	25.8
健康をチェックしてもらえる	19.0	23.6	26.5	22.4	21.6
安い値段でスポーツができる	14.6	18.2	36.1	12.5	16.7
施設の利用料金が割引になる	13.9	12.9	24.7	10.8	13.3
専門的な知識をもった指導者がいる	6.6	9.9	16.9	5.2	8.5
いろいろな世代と交流ができる	10.6	8.3	19.9	6.1	9.3
いろいろなスポーツができる	8.8	6.2	12.0	6.4	7.3
多様なプログラムを提供してくれる	3.6	2.7	6.0	2.3	3.1
その他	8.8	11.5	5.4	15.7	10.4

(あてはまるものすべて○印)

加入の有無別に比較すると、クラブ加入を希望しているB群では、「自分のレベルにあった運動ができる」「一緒に活動する仲間がいる」「健康をチェックしてもらえる」が多くなっており、B群を加入させるためには、多種多様なプログラムと仲間づくりが必要であることがわかる。

(4) 開催してほしいスポーツ教室

表14は、開催してほしいスポーツ教室についてあらわしたものである。全体では、「軽い体操」の22.9%が最も多く、次いで、「ウォーキング」の17.3%、「水中での腰痛体操」の16.1%、「水中歩行」の12.5%、「筋力トレーニング」の10.0%となっており、個人でも簡単に行える健康づくり的なものが多くなっている。また、「水中での腰痛体操」や「水中歩行」は、温水プールを利用したのとなっており、新しくできた温水プールに関心を持っていることがわかる。男女とも「水中での腰痛体操」や「ウォーキング」が多くなっており、それに加えて、男性では、「筋力トレーニング」、女性では、「軽い体操」「水中歩行」「エアロビクスダンス」が多くなっている。このことから、男性は体力志向、女性は健康志向の傾向がみられる。

表14 開催してほしいスポーツ活動 (％)

項目	男性	女性	A群	B群	C群	全体
軽い体操	16.8	27.3	9.0	27.7	22.2	22.9
ウォーキング	18.6	16.4	10.4	19.3	20.4	17.3
水中での腰痛体操	15.7	16.4	16.4	26.5	11.1	16.1
水中歩行	8.4	15.5	13.4	19.9	8.7	12.5
筋力トレーニング	15.3	6.2	16.4	26.5	11.1	10.0
バレー・レクバレー	8.4	7.0	17.9	13.9	3.8	7.6
太極拳	6.2	8.6	11.9	11.4	4.1	7.6
エアロビクスダンス	1.8	11.3	7.5	15.1	4.1	7.3
バドミントン	6.6	7.5	14.9	12.0	4.1	7.1
初心者水泳	4.4	9.1	9.0	13.3	3.5	7.1
卓球	8.8	4.3	10.4	10.2	4.4	6.2
テニス	8.8	4.3	9.0	10.8	2.9	6.2
ダンベル運動	5.1	6.7	7.5	5.4	6.1	6.0
ゲートボール・クロッカー	8.4	2.7	17.9	7.8	0.9	5.1
野球・ソフトボール	8.0	1.1	7.5	4.8	2.7	4.0
その他	10.2	5.9	7.5	5.4	9.6	7.7
無回答	24.8	23.3	11.9	4.8	34.7	24.0

(3つまで○印)

加入の有無別に比較すると、A群では、「バレー・レクバレー」「ゲートボール・クロッカー」「バドミントン」が多くなっており、B群では、「軽い体操」「水中での腰痛体操」「水中歩行」「ウォーキング」「エアロビクスダンス」が多くなっている。A群では、男性の占める割合が高く、また、スポーツクラブに加入している人が多いため、スポーツ種目を期待する人が多く、一方、B群では、女性が多いため、健康づくりを希望する人が多いと思われる。以上のことから、スポーツ教室は、スポーツ種目の教室と健康づくりのための教室が必要であるといえる。

(5)スポーツクラブの会費

表15は、かみうらスポーツクラブの会費について示したものである。全体では、「ちょうどいい」の51.9％が最も多く、次いで、「高い」の18.1％、「安い」の9.9％となっており、クラブの会費は適当であるといえる。性別で比較すると、差はみられなかった。

表15 スポーツクラブの会費 (％)

項目	男性	女性	A群	B群	C群	全体
高い	17.5	18.5	13.4	17.5	20.4	18.1
ちょうどいい	52.9	51.2	68.7	64.5	42.3	51.9
安い	8.8	10.7	10.4	9.6	8.7	9.9
その他	6.9	9.9	4.5	7.2	11.4	8.7
無回答	13.9	9.7	3.0	1.2	17.2	11.4

加入の有無別に比較すると、A群とB群ともに「ちょうどいい」が多くなっており、かみうらスポーツクラブ加入者と加入希望者では変わらないことがわかる。C群は、「無回答」が多くなっており、クラブに対して無関心であることがわかる。

(6) ボランティア・指導者としての参加希望

表16は、かみうらスポーツクラブへのボランティアあるいは指導者としての参加希望をあらわしたものである。全体では、「参加したい」人は、わずか2.3％しかいなくて、「誘われれば参加したい」の12.8％を加えても15.1％であり、ボランティアや指導者としての参加に消極的であることがわかる。性別で比較しても差はみられない。

表16 ボランティア・指導者としての参加希望 (％)

項目	男性	女性	A群	B群	C群	全体
参加したい	2.6	2.1	6.0	5.4	0.0	2.3
誘われれば参加したい	15.7	10.7	25.4	24.1	4.4	12.8
あまり参加したくない	31.8	29.8	41.7	30.8	29.2	30.6
参加したくない	41.1	47.7	22.4	30.1	58.8	45.0
無回答	8.8	9.7	4.5	9.6	7.6	9.3

加入の有無別に比較すると、「参加したい」「誘われれば参加したい」と回答した人は、A群31.4％、B群29.5％、C群4.4％であり、ボランティア・指導者としての参加希望はA群とB群で変わらないことがわかる。この3割の人をどのようにして取り込んでいくかが今後の課題であると思われる。

(7) クラブへの期待

表17は、かみうらスポーツクラブにどのようなことを期待しているかをあらわしたものである。全体では、「生きがいづくり」が45.3％と最も多く、次いで、「青少年の健全育成」の37.2％、「地域（交流）の活性化」の

35.7%、「子どもの遊びの復活」の20.4%、「医療費の削減」の17.9%となっている。これを久万町の調査<sup>3)</sup>と比べると、久万町の調査では、「生きがいづくり」の54.3%が最も多く、次いで、「地域（交流）の活性化」の44.2%、「青少年の健全育成」の42.5%、「子どもの遊びの復活」の31.0%、「医療費の削減」の17.1%となっている。久万町の方が上浦町よりも、クラブにより多くのことを期待していることがわかる。性別で比較すると、男性では、「青少年の健全育成」と「地域（交流）の活性化」が多くなっており、女性では、「生きがいづくり」が多くなっている。この理由として、男性の方が、昔から上浦町に住んでいる人が多く、上浦町の変化に気づいており、上浦町を活気づいた町にしたいと考えている人が多いと考えられる。女性は、健康に気を使っていることから、スポーツを通して生きがいを見つけたいと思っている人が多いことがわかる。

表17 クラブへの期待 (%)

項目	男性	女性	A群	B群	C群	全体
生きがいづくり	38.7	50.1	44.8	63.3	37.3	45.3
青少年の健全育成	41.2	34.3	53.7	42.8	31.5	37.2
地域(交流)の活性化	40.5	32.2	59.7	51.2	24.2	35.7
子どもの遊びの復活	20.8	20.1	32.8	19.3	19.2	20.4
医療費の削減	17.9	18.0	17.9	16.9	18.7	17.9
地域経済力の活性化	14.6	13.1	26.9	13.3	10.8	13.8
観光地としての復活	13.5	13.4	16.4	16.9	11.1	13.4
人口流出の歯止め	13.5	11.3	22.4	14.5	9.3	12.2
居場所づくり	12.0	8.8	11.9	15.7	7.6	10.2
部活動の強化	8.4	4.6	16.4	8.4	4.4	6.2

(あてはまるものにすべて○印)

加入の有無別に比較すると、ほとんどの項目についてA群の割合が多くなっていることがわかる。これは、かみうらスポーツクラブに対する関心の違いであり、加入しているA群の人はクラブに対してかなり期待している。また、B群は「生きがいづくり」を指摘した人が多い。一方、C群はあまりクラブに対して関心がないため、各項目に対して低い値を示しているといえる。

#### IV、結論及び今後の課題

(1) 総合型地域スポーツクラブ加入者（A群）は、ほぼ全員スポーツクラブに加入しており、定期的なスポーツ活動を実施している。また、実施種目としてはチーム

スポーツをよく行っている。加入希望者（B群）は、クラブ加入率もスポーツ実施率も低く、実施種目は個人で気軽に行えるものが多い。今後行ってみたいスポーツ種目は、現在実施しているスポーツ種目を引き続き行いたいと思っている人が多い。

(2) 多々羅スポーツ公園は、ハード面は十分であるがソフト面については不十分であり、指導者の養成や雇用、ニーズにあったスポーツ教室を開催する必要がある。

(3) 総合型地域スポーツクラブについて、住民はある程度理解している。これからは、総合型地域スポーツクラブへの啓蒙活動を行い、かみうらスポーツクラブへの積極的な勧誘活動を行う必要がある。

(4) 加入希望者を加入させるためには、誰でも参加できるスポーツイベントや、気軽に個人で行うことができるスポーツ教室からきっかけをつくることと、仲間づくりが必要であるといえる。

(5) かみうらスポーツクラブに対する期待では、「生きがいづくり」「青少年の健全育成」「地域（交流）も活性化」「子どもの遊びの復活」「医療費の削減」など総合型地域スポーツクラブに期待している人が多い。また、かみうらスポーツクラブに関心がある人ほど期待が大きい。

「かみうらスポーツクラブ」の今後の課題として、次のことがいえる。

第一に、総合型地域スポーツクラブへの加入者はほとんどの人がクラブ加入者であるため、クラブの世話人に自分が行っているスポーツ教室を開設させる。例えば、体育館の2面のコートをも、一面はクラブが使用し、もう1面はスポーツ教室を開設する。また、クラブ会員が得をするような施設の割引や特典をつけるなどのサービスを設ける。また、スポーツ教室などの後におしゃべりが出来るような空間を作り、コートの外空間を大切にすることにつながる。

第二に、加入希望者を加入させるためには、啓蒙活動をもっと盛んにし、個人でも気軽に行われるような健康づくりのための教室を用意する。特に、温水プール、体育館やトレーニング室を利用した多種多様なスポーツ教室や講習会などが必要であると考えられる。また、定期的に健康や体力をチェックしてもらえるようなシステム



を導入することも加入させるための手段である。

第三に、加入率の低い中高齢者を加入させるためには、「健康づくり」と「居場所づくり」が必要である。健康には、身体的・精神的・社会的健康がある。スポーツをした後、クラブハウスでの「おしゃべり」「食事」「お酒」は、スポーツをした後の居場所になり、中高齢者の社交場を「病院からクラブハウス」に変えることが出来る。クラブハウスで過ごすことにより、ストレスの解消や仲間づくりになり、そのことが精神的・社会的健康につながってくる。とくに、高齢化率が38.4%の上浦町にとって、増大する医療費を減らす効果になるものと思われる。

### 参考文献

- 1) NPO法人クラブネッツ（2004）「第3回総合型地域スポーツクラブ育成状態に関する調査報告書」
- 2) 愛媛県（2001）「県民のスポーツに関する世論調査」
- 3) 堺賢治・藤原誠・山本孔一（2004）「総合型地域スポーツクラブ設立のための住民調査－愛媛県上浮穴郡久万町の場合－」 愛媛大学教育学部紀要 第51巻 第1号 pp.115-120